

KEYWORD

【香川大学大学院
地域マネジメント研究科】

従来の大学院と異なり、高度な専門知識と能力を持つ専門職業人の養成に特化した大学院。第1期生38名に、専任教員18名(うち1名は平成17年度就任)と各方面から35名の講師が携わっている。専任教員は、経営・会計領域のみならず、地域科学・行政分野の優れた研究業績や実務業績を持つ人が集まり、多彩である。また講師として、大学、企業、行政の各界の第一人者が地元はもとより中央からも加わっている。

古吉 ももちろん、やっています。例えば、後期は与えられた課題について、グループでディスカッションして取りまとめの授業でプレゼンするという機会が、もう動弁してほしいほど(笑)たくさんありました。こうしたディスカッションは、当然、授業



学生同士、授業以外で話や勉強をしますか？
古吉 もちろん、やっています。例えば、後期は与えられた課題について、グループでディスカッションして取りまとめの授業でプレゼンするという機会が、もう動弁してほしいほど(笑)たくさんありました。こうしたディスカッションは、当然、授業

以外の時間にもやります。平日の講義終了後(21時10分)や講義のない日曜日で大変です。けれども、我々学生は行政やいろいろな民間企業が集まっており、さらに学部から進学した者もいますので、様々な視点からの意見や考え方を聞くことができ、とても参考になります。社会人ですので、お酒も飲みながら、楽しくいろいろ語り合うことも多く、いろんな形で講義以外の付き合いや「ミニセミナー」の機会が多いです。大半が仕事を持つ社会人でありながら、毎回のようなレポート提出にも応える。今日も熱気ある授業風景が、繰りひろげられている。



中四国地域初のビジネススクールとして、香川大学大学院地域マネジメント研究科が平成16年4月に開設されました。従来の大学院とは異なる専門職大学院という新しい形態で、香川に精通したMBA(Master of Business Administration)の養成を目指して、取り組んでいます。今回は、その授業を受けている学生2人に話を聞きました。

古吉 県職員である私が香川大学にMBAが開設されるのを知ったのは、県からMBAに派遣する職員の庁内公募があったからでした。私は、まさに自分のための大学院だと勝手に思い込み(笑)、それを見た瞬間に受けようと思った。というのは、私は、県行政を地方分権時代に相応しいものに変える、人々が香川に住んでほんとに良かったと思える地域にするにはどうしたらいいかという問題意識を常日頃から持っており、それについて悩み続けていました。実

際どうしたらいいのか分からなかったのです。地域活性化のリーダー養成を目指す大学院である香川大学MBAで、悩み続けてきたことの答えを見つけた、あるいは答えを見つける道具を学びたいというのが私の動機です。

灘波 僕は香川大学の出身ですが、同級生が大学院にいたんです。今年卒業しましたけど、それで彼が、今度こういうのができて、勉強になるからお前も入れと、それで大学の時の先生もおいでです。社長をやって7年目で、勤と経験とほんの一部の議論の勉強をやったんです。でも経営するに当たって、これからは自分のやってきたことが正しいかどうか検証しないと、いけない。ヌケとか漏れがあっても困るし、理論的な押さえもあつた上で経営をやっているというのがある。いい勉強の機会だし、同級生も案やからちょっときたらええわ、と言ったので(笑)それくらいの時間ならとれるかなと思つて入ってきました。ところが大変ですけどね。

周りの人にもMBAを奨めていこうとしますか。
灘波 勉強せいと(笑)。友達とか、社長さん方に息子さんを入れなさい、という話はしています。勤と経験も非常に大事ですけど、これからは理

地域活性をリードできるよう、「勉強」します。



